

令和 5 年度 上戸祭小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

基本目標：心身ともに健康で日本及び国際社会に貢献できる人間の基礎的な資質を養う。

—自分や他人を大切にする子ども・進んで学ぶ子ども・たくましく生きる子ども—

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

人間尊重の精神を基盤としたあらゆる教育活動を通して，学校教育目標に掲げた児童の育成を図る。

合言葉：学ぼう 遊ぼう 友だちと

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

(1) 児童の学力の向上のため，教師の授業力の向上を図る。

(2) 児童にとって居がいのある学級づくりを目指す。

(3) 地域とともにある学校を目指す。

○【星が丘中学校地域学校園教育ビジョン】

未来を見つめ，主体的に生き抜く力の育成
～認め合い，学び合い，高め合う児童生徒を育てる取組を通して～

4 教育課程編成の方針

(1) 本校の教育目標の実現のために各教科等及び学年間の関連を図り，系統的・発展的な指導を行うとともに，地域や学校の実態，児童の発達段階や特性を考慮し，特色ある教育課程を編成する。

(2) 学校評価の反省を生かし，本年度の経営方針を踏まえ，知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」の育成を目指した教育活動の展開を図る。

(3) 「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて工夫改善を図る。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

(1) 学校運営

○ 未来を見つめ，主体的に生き抜く力の育成

(2) 学習指導

・ 「分かる喜び」「学ぶ楽しさ」を味わわせる授業の創造

○ 自ら考え，交流し，学びを深められる児童の育成

(3) 児童生徒指導

・ 元気なあいさつと正しい言葉遣いを指導の重点とした，望ましい生活習慣と正しい判断力の育成

○ 互いのよさを認め合い，自己有用感を高め，他人を思いやることのできる児童の育成

(4) 健康（体力・保健・食・安全）

・ 自らのめあてを明確にし，進んで体力向上に取り組む児童の育成

・ 児童の健康な生活習慣の定着

(5) 教職員の働き方改革

・ 業務の効率化の推進

・ リフレッシュウィークの奨励

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通, 地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には, A拡充 B継続 C縮小・廃止, を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は, 文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1- (1) 確かな学力を育む教育の推進	A 1 児童は, 他者と協力したり, 必要な情報を集めたりして考えるなど, 主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は, 友達と話し合ったり, 必要な情報を集めたりしながら, じっくり考え, 進んで学習に取り組んでいる。」における肯定的回答 ⇒児童・教職員 95%以上	①自分の考えや思いを図や言葉で表現したり, 話し合ったりするなど, 豊かに表現して学び合う児童を育成する。 ②「学習のきまり」を基本にしながら, 相手に分かりやすく伝えたり, 自分の考えと比較して意見を述べたりできるよう, 自分の考えを伝える力を育成する。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答 94. 0 % 教職員の肯定的回答 96. 8 % ・目標値はほぼ達成することができた。 ・解決の見通しをもちながら進んで学習に取り組む, 学びを深めることができた。 【次年度の方針】 ・「学習のきまり」を基本にし, 相手に分かりやすく伝えたり, 自分の考えと比較して意見を述べたりできるよう, 自分の考えを伝える力の育成に継続して取り組むとともに, 学習の様子を周知し, 家庭との連携を図る。
1- (2) 豊かな心を育む教育の推進	A 2 児童は, 思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は, 誰に対しても, 思いやりの心をもって優しく接している。」における肯定的回答 ⇒児童・教職員 90%以上	①道徳科の授業の実施し, 生命や人権を尊重する心や, 人を思いやる心などを涵養する。 ②人権教育年間指導計画に基づき, 全教育活動を通して人権教育を実施する。 ③相手の立場を考えて思いやる心を育めるよう児童会活動や縦割り班活動を計画的に実施する。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答 92. 1 % 教職員の肯定的回答 96. 8 % ・目標値を達成することができた。 ・縦割り班活動を再開することができ, 高学年が下学年に思いやりを持って優しく接することができた。 【次年度の方針】 ・縦割り班活動を継続的に取り入れ, 異学年交流の中で, 相手の立場を考えて思いやる心を育む。
	A 3 児童は, 目標に向かってあきらめずに, 粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は, 目標に向かってあきらめずに, 粘り強く取り組んでいる。」における肯定的回答 ⇒児童・教職員 85%以上	①児童の自己有用感を高められるよう, 児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに, 担任が認め励ます指導に努める。 ②各教科の授業や校内での各種検定等において, 児童が目標をもって取り組む機会を設けるとともに, 目標の達成に向けて努力している児童を称賛する。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答 92. 9 % 教職員の肯定的回答 96. 8 % ・児童・保護者ともに目標値を上回った。 ・学習カードや行事等で目標設定と振り返りの繰り返しで, 目標に向かって努力する意欲が向上した。 【次年度の方針】 ・本年度同様に具体的な取組を実践すると共に, 道徳の教材との関連も図っていく。
1- (3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A 4 児童は, 健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は, 健康や安全に気を付けて生活している。」における肯定的回答 ⇒教職員・保護者 90%以上	①児童が自分の健康に気を付けて生活できるよう, 学級活動, 体育, 学校行事と関連を図った保健指導や日常生活指導を行う。 ②学校給食と各教科等との関連を図り, 栄養のバランスのとれた食事と望ましい食習慣の育成を図る。 ③交通安全指導や避難訓練を定期的に行い, 自然災害も含め, 自分の命は自分で守ろうとする意識が高められるよう, 指導を工夫する。 ④廊下や階段の歩行, 校庭での遊び方等, 校内での安全な生活について児童に意識させるとともに, 全職員で指導する。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答 96. 8 % 保護者の肯定的回答 88. 7 % ・児童の目標値は達成できたものの, 保護者の肯定的回答は目標値を下回った。 ・避難訓練や交通安全教室などの振り返りを実施することで, 児童の安全への意識が高まった。 【次年度の方針】 ・校内での安全な過ごし方や外での遊び方のほか, 登下校等校外での過ごし方や家庭生活についても, 家庭や地域と連携を図りながら, さらに健康や安全への意識を高めていく。

1-(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 ・児童（生徒）は、互いの良さを生かしながら、進んで意見を発表したり、協力したりして、集団での課題を解決している。 における肯定的回答 ⇒児童・教職員 90%以上	①一人一人の児童が居がいをもって学校生活を送ることができるよう、教員が積極的に児童のよさを見つけ、誉めたり言葉掛けを行ったりするとともに、悩みをもつ児童が教師に気軽に話ができる体制づくりを行う。 ②学級の中での当番や係活動、また委員会活動や縦割り班活動等を通して、一人一人が活躍できる場を設定していく。	【達成状況】 児童の肯定的回答 92.7% 教職員の肯定的回答 96.8% ・児童・保護者・教職員ともに目標値を達成できた。 ・学級での役割を果たしたり達成感を味わったりする経験や教師の励ましで、協力してより良い学級を作ろうとする意識が高まった。 【次年度の方針】 ・本年度同様の取組を継続していくと共に、児童がそれぞれのよさを発揮できる居心地のよい集団づくりに努める。
2-(1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	A6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。」 における肯定的回答 ⇒児童 95%以上	①外国語活動を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 ②簡単な英語表現に繰り返し触れさせる。 ③外国語活動に関する校内研修やALTと事前に綿密な打合せを重ねるなど、指導力の向上を図る。	【達成状況】 児童の肯定的回答 87.4% ・目標値は達成できなかったが、市の平均を上回った。 ・英語を使ったやりとりを重視し、積極的にコミュニケーションを図る機会を設けた。 ・学校全体で英語表現に触れる取組を実施することができた。 【次年度の方針】 ・簡単な英語表現に繰り返し触れさせたりALTと協力したりしながら、さらなるコミュニケーション能力の向上を継続的に図る。
	A7 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、宇都宮の良さを知っている。」 における肯定的回答 ⇒児童 90%以上	①各教科等の授業や校外学習、家庭学習、食育や学校図書館等において、学習内容に関連させながら児童が身近な地域や宇都宮市の良さに気付く指導に努める。 ②教師自身が宇都宮市の歴史、文化、伝統産業、特産物等について理解を深められるよう努める。	【達成状況】 児童の肯定的回答 89.9% ・目標値をほぼ達成することができた。 ・様々な教科において、身近な地域や宇都宮市を調べたり特徴に触れたりすることを通して、宇都宮市の良さに気付くことができた。 【次年度の方針】 ・授業で身近な地域の学習を行う際には、宇都宮の良さについても意図的に触れるようにする。 ・学習だけでなく朝や帰りの会等でも、宇都宮市の良さについて話題にすることで、その周知を図る。 ・職員研修の機会を設けるなどして、職員も学びを広げ、指導に役立てる。
2-(2) 情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進	A8 児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。」 における肯定的回答 ⇒児童・保護者・教職員 80%以上	①児童がコンピューターや情報通信ネットワークなどの情報手段に親しみ、適切に活用する能力を育成できるように、授業において積極的にデジタル機器を活用する。 ②各学年のその時期の授業内容との関連に配慮した教育図書の整備充実等、学校図書館の環境整備に努める。 ③一人一台端末を活用した学習を家庭と連携して取り組んでいく。	【達成状況】 児童の肯定的回答 90.8% 教職員の肯定的回答 100.0% 保護者の肯定的回答 85.4% ・目標値を達成することができた。 ・職員研修の機会を設けることで、デジタル機器を効果的に活用することができた。 ・司書教諭と連携し授業内容との関連に配慮した教育図書を充実させることで、学習効果が上がっている。 【次年度の方針】 ・学年だより等で、ICT機器や図書を活用した学習の様子や正しい使い方について、引き続き保護者に伝えていく。 ・司書教諭と連携し、各学年のその時期の授業内容との関連に配慮し、教育図書の有効活用に引き続き努めていく。

2- (3) 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進	A9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、『持続可能な社会』について、関心をもっている。」 における肯定的回答 ⇒児童・教職員 85%以上	①社会科や総合的な学習の時間等における環境教育や各教育等を通して、環境問題への関心を高め、資源を大切に、環境と調和しながら生きる意識や態度を育成する。 ②豪雨による水害や東日本大震災などの過去の災害の具体事例から学ぶ機会を設け、防災教育を充実する。 ③職員研修の機会を設けるなどして、職員の意識を高めていく。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 92.3% 教職員の肯定的回答 87.1% ・目標値を達成することができた。 ・SDGsを教科横断的に取り扱うことで、環境問題への意識を高めることができた。 【次年度の方針】 ・「持続可能な社会」について、社会科や総合的な学習の時間を中心に取り入れ、環境問題への関心を高める。 ・職員研修の機会に、職員の理解や意識を高める。
3- (1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進	A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	①特別支援教育コーディネーターや児童指導主任を中心に、全校で特別な支援が必要な児童に関する共通理解を図り、一人一人のニーズを踏まえた支援を組織的に行う。 ②必要に応じて個別の支援計画を作成し、それに基づく合理的な配慮を伴う指導に努める。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答 96.8% ・目標値を達成することができた。 ・職員会議の都度、配慮の必要な児童の情報共有を行ったり、教育支援委員会やケース会議を適宜設けたりし、全教職員の共通理解の下、きめ細やかな指導を心掛けることができた。 【次年度の方針】 ・次年度も引き続き、特別な支援を要する児童に対して、適切な指導・支援を全校体制で行っていく。
3- (2) いじめ・不登校対策の充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、いじめ対策に熱心に取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒児童 90%・保護者 85%以上	①学級活動、道徳科の授業を通して、人を思いやることや人権を尊重することの大切さを指導するとともに、日常生活の中でいじめが許されない行為であることを繰り返し指導する。 ②児童会主体の「いじめゼロ運動」の推進に努める。 ③定期的なアンケートやQ-U検査の結果、教育相談等から、児童を共感的に理解した上で、組織的な対応によりいじめの早期発見・早期解決を図る。 ④学年だよりや学校ホームページに道徳や学級活動で学習したことや、児童の様子などを掲載し情報を発信していく。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 97.2% 保護者の肯定的回答 82.4% ・児童会主体の「いじめゼロ運動」を充実させることができた。学校ホームページに取組様子などを掲載し、情報の発信ができた。 ・アンケートや教育相談等を定期的に行うことにより、児童理解を深め、些細なトラブルを把握・解決することができた。 【次年度の方針】 ・引き続き、指導や実態の把握、児童主体の活動の充実を図り、その様子を学年だより等も利用し積極的に発信していく。

	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、一人一人を大切にし、児童がともに認め励まし合う機会をつくってくれている。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上	①児童の自己有用感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、担任が認め励ます指導に努める。 ②教育相談、アンケート、Q-U調査、SCとの教育相談などの結果を活用し、不適応傾向のある児童の早期発見、不登校の兆候や傾向の児童に関わる校内全体の情報共有を図る。 ③職員会議で定期的に児童の情報交換を行う。	【達成状況】 児童の肯定的回答 95.1% ・目標値を達成することができた。 ・教職員が、児童がともに認め励まし合う機会を持った。 ・不適応や不登校の兆候や傾向のある児童に関わる校内全体の情報共有を行い、きめ細やかに対応した。 【次年度の方針】 ・引き続き、児童がお互いに認め合う場を意図的に設けたり、児童を励ます指導を行ったりしながら児童の自己有用感を高めていく。
3-(3) 外国人児童生徒等への 適応支援の 充実	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、児童の悩みに寄り添い、相談に乗ったり、問題の解決に努めたりして、児童生徒が明るくいきいきと学校生活を送れるようにしている。」 における肯定的回答 ⇒児童・保護者 90%以上	①日常的に児童の様子を細かく見取り、一人一人の話をよく聞き、声を掛け、よいところを認め、伸ばす指導に努めると共に、いつでも悩みを相談できる人間関係を構築する。 ②職員間で情報交換を密にし、児童のよさを共有し、伸ばす積極的な児童指導に努める。 ③学級や学年、児童会等でイベントを企画・実践し、児童が主体となって活躍したり、目標を達成に向けて協力したりすることで、学校生活の活性化につなげる。	【達成状況】 児童の肯定的回答 95.9% 保護者の肯定的回答 90.4% ・児童・教職員ともに目標値を上回った。 ・日常的に児童の人間関係等を把握したり、様々な機会を捉えて児童が楽しいと感じる活動を取り入れたりすることで、生き生きとした学校生活を送ることができた。 【次年度の方針】 ・学校生活のアンケートや教育相談の機会も有効に活用し、児童に寄り添った支援を継続していく。 ・児童が主体的に取り組める行事等を工夫し、活気のある学校づくりを進める。
4-(1) 教職員の資 質・能力の 向上	A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」 における肯定的回答 ⇒児童 90%以上	①漢字、計算、音読などを発達の段階に応じて取り入れ、基礎・基本の定着を図った上で、分かる授業のための教材研究・授業研究に努め、自分の思いや考えを豊かに表現させながら、学び合う授業を展開する。 ②教師は授業の中でねらいを明確にし、友達の考えと自分の考えを比較してさらに学びを深める活動や、個別最適な支援を継続していくことで、全体的な学力向上を図る。 ③児童の実態に合わせ、個に応じたきめ細やかな支援を行う。	【達成状況】 児童の肯定的回答 97.6% ・目標値を達成した。 ・個に応じた支援を行うことで、学力の向上を図ることができた。 【次年度の方針】 ・きめ細やかな学習指導を行うために、教職員の情報のやり取りを密にすることで、学年や学級のつながりを高め、教材研究に生かす。 ・職員研修や授業研究の機会を充実させ、指導力のさらなる向上を図る。 ・児童の実態に合わせ、個に応じたきめ細やかな支援を継続していく。

4- (2) チーム力の 向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校に関わる教職員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒教職員 90%以上	①「チーム上戸」の合言葉のもと、校内における良好な人間関係の醸成を図ることで、より一層の風通しの良い雰囲気づくりに努める。 ②校内のOJTをさらに進め、教職員の専門性を生かした取組を推進するなど、チームとしての協働性を高め、教職員の資質向上を目指していく。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答 96.8% ・目標値を達成することができた。 【次年度の方針】 ・風通しのよい職員室づくりを今後も意識して行い、互いに相談しやすい雰囲気を築くようにする。 ・初任者や若手教員に対し、OJTをさらに進め、チームとしての協働性を高め、教職員全体の資質向上に努める。
4- (3) 学校における働き方改革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	①教職員の負担軽減に向け学校の組織運営の改善や、各種行事等の精選を行う。感染症対策に関しては、過剰になりすぎることなく臨機応変に対応し、負担軽減を心掛ける。 ②1人1台端末の効果的な利用についてICT支援員と連携を取りながら学び合う機会を設け、業務の効率化につなげていく。 ③「リフレッシュウィーク」への意識を高めることで、勤務時間を意識した業務の効率化や計画的な処理を進められるようにする。特に、リフレッシュデーを学年ごとに明示し、意識付けできるようにする。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答 87.1% ・目標値を達成することができた。 【次年度の方針】 ・コロナ前の行事が戻りつつあるが、行事そのものの精選、内容の精選に努め、児童にとってよりよい教育活動を行えるようにする。 ・教員の業務効率化のために、ICT支援員を効果的に活用する工夫を行ったり、市内・他校の情報を共有し、授業に生かしたりできるようにする。 ・今後もリフレッシュデーを学年で明確化し、早めの退勤を心掛けられるようにする。
5- (1) 全市的な学校運営・教育活動の充実	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、小学校と中学校が連携した「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」 における肯定的回答 ⇒教職員・保護者 85%以上	①星が丘地域学校園ビジョンに基づき、中学校との連携を保ち、あいさつ運動や乗り入れ授業を、目的を明確にして効果的に実施する。 ②地域学校園事務室や、学校一人配置職員の分科会を通して、学校園内の相互支援体制を充実する。 ③地域学校園の取組の様子について、学校HP等を活用して保護者への周知を図る。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答 96.8% 保護者の肯定的回答 81.5% ・教職員は、高い肯定的回答を得られたが、保護者の肯定的回答率は、目標値を下回ってしまった。 【次年度の方針】 ・乗り入れ授業やあいさつ運動を今後も計画的、効果的に実施する。さらに、それらの行事の様子をHPや学年だより等に掲載する際に「地域学校園の催し」ということを強調して、保護者に周知するようにする。
5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充	①地域協議会や地域コーディネーターと連携を図り、地域の人材や施設	【達成状況】 保護者の肯定的回答 89.9% 地域住民の肯定的回答 86.4%

5-(3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進	実を図っている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、家庭・地域・企業と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 における肯定的回答 ⇒保護者・地域住民 85%以上	等の教育力を生かした学習を可能な範囲で実施していく。 ②家庭や地域社会との連携による教育活動を実施することで、よりよい生活習慣の育成や効果的な学習活動の展開を目指す。	B ・保護者、地域住民共に、目標値を達成することができたが、市の平均を10ポイント以上下回った。 【次年度の方針】 ・土曜授業以外にも、7月、2月の授業参観についても、地域への公開を十分周知し、学校の教育活動への理解を深められるようにする。 ・感謝の会、PTAイベント（土曜授業）釜川会の活動等、保護者・地域と連携した行事を行いHP等で紹介していく。 ・「かみたま」や「上戸クラブ」と連携し、十分に児童の情報交換を行う。
6-(1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 における肯定的回答 ⇒教職員 90%・保護者 90%地域住民 90%以上	① 毎月、各教室、特別教室、廊下、体育館等を、チェック項目に基づく安全点検を実施し、危険箇所については迅速な改善や修繕に努める。 ②危機管理マニュアルを整備するとともに、避難訓練や引き渡し訓練等を通して、火事、地震、竜巻、不審者侵入等の不測の事態への備えを万全にする。 ③感染症予防対策、熱中症対策、インフルエンザ蔓延予防対策など、年間を通して保健指導管理に努める。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答 92.5% 保護者の肯定的回答 90.5% 地域住民の肯定的回答 90.5% ・教職員・保護者・地域住民全てにおいて、高い肯定的回答を得ることができ、目標値を達成した。 【次年度の方針】 ・前年度の反省を生かし、実践的で効果的な避難訓練や引き渡し訓練を行う。雨の日の引き渡し避難も新たに計画し、いろいろな場面での避難を想定しておく。
6-(2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピューターなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、授業（授業準備を含む）や業務に、デジタルを積極的に活用している。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	①児童がコンピューターや情報通信ネットワークなどの情報手段に親しみ、適切に活用する能力を育成できるよう、授業において積極的にICT機器を活用する。 ②一人一台端末を活用した学習を、家庭と連携して取り組んでいく。 ③文書管理やアンケート処理など、日常的にデジタル機器を進んで活用し、業務の効率化を図る。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答 100.0% ・目標値を達成することができた。 ・授業において積極的に一人一台端末を活用したことで、児童のICT活用能力が高まった。 【次年度の方針】 ・一人一台端末などのデジタル機器の基本的な使い方を継続的に研修していくことで、学習指導に生かしていく。 ・ICT支援員との連携を密に行うことで、学習指導や業務の効率化に生かしていく。
小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童（生徒）は、時と場に応じたあいさつをしている。」 ⇒児童・地域住民 90%以上	①年間を通して地域や地域学校園と連携して児童が中心となって工夫したあいさつ運動を展開するとともに、登下校や上戸タイム、朝の会、帰りの会など、さまざまな場で児童の規範意識を高める指導を行う。 ②自ら進んであいさつすることや、時と場に応じた言葉遣いについて、地域住民や保護者に働きかける。 ③日々の生活の中で教職員も進んであいさつを行い、児童のあいさつに対する意識を高める。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 94.9% 地域住民の肯定的回答 70.0% ・マナーアップ委員会が中心に積極的にあいさつ運動に取り組んだ。全校児童に参加を呼びかけるイベントを企画し、あいさつへの意識を高めた。 【次年度の方針】 ・児童が中心となったあいさつ運動を継続・展開し、児童の意識を高める。 ・地域住民の方々への感謝の気持ちを持てるよう働きかけ、あいさつにつながるようにする。

	B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童（生徒）は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」 における肯定的回答 ⇒教職員・保護者 90%以上	①「かみとよい子のやくそく」に基づく全校共通理解のもとで、基本的生活習慣と正しい判断力の育成に努める。 ②きまりやマナーを守って行動していることを児童が相互に認めあう場や教師が称賛する機会を数多く設け、意識付けしながら実践意欲を高める。 ③生活目標に決まりやマナーに関する目標を掲げ、休み時間に巡視や指導を行うことで、児童の意識化を図る。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答 96.8% 保護者の肯定的回答 93.6% ・目標値を達成することができた。 ・決まりやマナーに関する生活目標を、児童の実態に合わせて設定し、重点的に指導した。 【次年度の方針】 ・引き続き「かみとよい子のやくそく」の全校共通理解のもと、指導を行う。
	B3 児童は、積極的に遊びや運動を楽しんでいる。 【数値指標】 学校独自アンケート 「児童は進んで遊びや運動を楽しんでいる。」 における肯定的回答 ⇒児童・保護者 85%以上	①体育の時間にがんばりカードを活用することで運動への意欲を高め、運動の楽しさを味わわせるとともに、体育の時間や学級活動で行う運動や遊びが日常の外遊びにつながるように工夫する。 ②体育委員会の活動と関連付けて、気軽に取り組める簡単な運動や遊びを紹介したり、運動遊びのミニイベントを行ったりして、児童が進んで運動を楽しもうとする意欲を向上させるようにする。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 96.6% 保護者の肯定的回答 95.4% ・児童・保護者ともに目標値を上回った。 ・各種がんばりカード等の活用や、体育委員会の遊びを紹介する活動などにより、児童は意欲的に運動に取り組んだ。 【次年度の方針】 ・体力テストの結果等を分析し、本校の実態に応じた体力向上につながる運動や遊びを紹介し、楽しみながら運動能力の向上を図れるように工夫する。 ・上戸タイムや昼休みの外遊びを奨励し、室内で過ごす児童を減らす。
	B4 学校は保護者と連携して家庭学習を進めている。 【数値指標】 学校独自アンケート 「児童は、毎日宿題などの家庭学習に取り組んでいる」 における肯定的回答 ⇒児童・教職員・保護者 90%以上	①「家庭学習の手引き」に基づき、家庭学習の捉え方について保護者及び児童に周知徹底を図り、各自が計画を立てて家庭学習に取り組めるように支援するとともに、保護者の理解・協力を得て、家庭学習の習慣化を図る。 ②「家庭学習の記録」やノートによく目を通し、一人一人の学習状況や内容に応じて個別指導を行い、認め励ますことで意欲づけを図る。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 90.4% 教職員の肯定的回答 100.0% 保護者の肯定的回答 92.6% ・目標値を達成することができた。 ・家庭学習の記録をとることによって、児童の学習に対する意欲が高まった。 【次年度の方針】 ・具体的な家庭学習の取組方、進め方について効果的な方法を児童に示し、継続して取り組めるようにする。また、懇談会や学年だより等を通して、引き続き保護者への啓発を図る。 ・「家庭学習の記録」やICTなどを活用した学習の蓄積を行い、児童の頑張りを可視化できるようにし、意欲を高める。
	B5 学校は家庭と連携して読書活動を推進している。 【数値指標】 学校独自アンケート 「学校は家庭と連携して読書活動を行っている」 における肯定的回答 ⇒教職員・保護者 85%以上	①地域学校園推薦図書（スター文庫）の設定・推奨、今月のお勧め図書の展示、読書週間での様々な企画等を通して、読書活動を推進する。 ②毎月第3日曜日を家庭読書の日とし、家庭の理解と協力を呼びかけながら、家庭読書の充実を図る。 ③「自分のおすすめの本」というテーマで、学期ごとに読書郵便として紹介文を書き、保護者に知らせる活動を行う。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答 100.0% 保護者の肯定的回答 87.3% ・教職員は、100%と高い肯定的回答率だった。保護者の肯定的回答率は、目標値は達成することができたが、昨年をやや下回った。 【次年度の方針】 ・今後も、読書郵便や「おうち de 読書」など、家庭と関わる読書イベントを継続して行い、読書活動の推進を行っていく。さらに、その内容を読書だよりに掲載し、学校の取組を周知する。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

《学校運営面》

・A15「教職員の協力」の項目では、職員の肯定的回答率は96%を超え目標値を上回った。またA16「業務の効率化」の項目では職員間の肯定回答率は87%を超え、どちらも市の平均を上回っている。風通しのよい職員室の雰囲気を保ちつつ、さらなる業務の効率化を目指し、ICT支援員の協力も得ながら授業・校務運営の両面でICTを有効活用していきたい。

○A17「小中一貫教育・地域学校園の取組」については、教職員の目標値は達成したものの、保護者の肯定的回答率は目標値を下回った。コロナやインフルエンザ等の感染拡大により、地域学校園の活動の様子が伝わりにくかったことが大きな原因と考えられる。来年度以降、乗入れ授業やあいさつ運動を計画的・効果的に実施し、そうした取組の様子について「地域学校園の催し」ということを強調し、各種たよりやHP等を通じて発信していくことが必要である。

・A19「安全な学校」の項目では、すべての評価者において肯定的回答率が90%を超え、目標値を上回った。ミストシャワーの設置等、熱中症予防対策の徹底、毎月の安全点検や日常的な危険個所の早期発見・修繕など、学校業務員や機動班とも連携し、安全に配慮した環境づくりに努めてきた結果と考えられる。今後も継続して取り組んでいきたい。

・B5「読書活動の推進」の項目では、教職員、保護者とも目標値を上回った。「読書郵便」などの各種イベントの活性化や、「家庭読書の日」「うち de 読書」による家庭読書の推奨など、学校と家庭が連携・協力して児童の読書習慣の形成に励んだ結果と考える。今後も読書活動の推進と「図書だより」等による学校の取組の周知を図りたい。

《学習指導面》

・A6「英語を使ったコミュニケーション」については、目標値は達成できなかったものの、市の平均は上回っている。ALTとも協力し、担任との英語でのやり取りをより日常化し、コミュニケーション力の向上を図っていく。

・A7「宇都宮のよさ」、A9「持続可能な社会」の項目では、すべての評価者において肯定的回答率の目標値を上回った。またすべての数値が市の平均を上回っている。社会科や総合的な学習の時間を中心に各教科において意図的に郷土のよさを取り上げる指導を続けた結果、児童の関心がますます高まったことがうかがえる。

・A8「デジタル機器・図書の活用」の項目では、児童、保護者、教職員ともに目標値を上回った。今年度、研修による教職員のスキルアップを図った取組が、授業や家庭学習での一人一台端末の積極的な活用を促したと考えられる。児童一人一人のデジタルスキルも向上している。また昨年同様、司書教諭と連携した教育図書の活用も、児童同士の「学び合い」による「深い学び」の実現を目指すうえで効果的であった。

○A14「分かる授業と児童指導」についての児童の肯定的回答率は97.6%と非常に高く、昨年度をさらに上回った。「職員全員の授業公開」を柱に計画的・組織的な校内研修による授業力向上の取組の成果と考える。次年度も「上戸小授業モデル」を活用し、「分かる喜び」「学ぶ楽しさ」を味わわせる授業づくりを目指すとともに、個に応じたきめ細かな支援を図っていききたい。また学年ごとに使用した教材の共有化を目指し、資料やデータを蓄積・整理していききたい。

《児童指導面》

○A2「思いやりの心」の項目では、児童、教職員共に目標値を上回った。各学級において児童同士が互いを認め合う場を意図的に設定するといった取組の成果と思われる。より良い人間関係の構築を目指し、児童が自己有用感をさらに高められるよう、一人一人のよさや努力したことについて称賛や励ましの声掛けを続けていく。

○A12「不登校対策」の項目では、児童、保護者の肯定的回答率がいずれも目標値を上回った。気になる様子が見られたり欠席が続いたりする児童をはじめ、一人一人にきめ細やかな対応を心掛けたことで、児童、保護者から一定の評価を得られたものとする。

○B1「あいさつ」の項目では、保護者、地域住民ともに目標値を下回ったが、委員会を中心にあいさつ運動に取り組んだことにより、児童一人一人の意識の高まりは感じられる。校内活動をさらに充実させ、校外でもその成果を生かせるよう働きかけていく。

○B2「きまりやマナー」の項目では、教職員、保護者ともに目標値を達成できた。道徳科の学習、日常生活などで児童の意識を高める指導を続けてきた結果であると考えられる。しかし、地域住民の肯定的回答率は市の平均値を下回った。「あいさつ」を中心に、校内での学びを校外でも生かせるよう、規範意識を高めていきたい。

《健康・体力面》

・A4「児童の健康や安全」の項目では、保護者の肯定的回答率が目標値をわずかに下回った。感染症拡大により複数のクラスで学級休業が生じたことも影響していると思われる。今後も家庭と協力・連携し、児童が安心して学校生活を送れるよう、日常生活での指導や行事等における健康・安全両面からの対策の徹底に取り組んでいきたい。

○B3「積極的な運動」の項目では、児童、保護者共に目標値を大きく上回った。体育の授業形態の工夫や、休み時間における運動の奨励などにより、多くの児童が運動を楽しんでいる様子がうかがえる。新体力テストの結果等を分析し、本校児童の実態に応じた「がんばりカード」の活用や「運動補助器具」の整備などにより、今後も、楽しみながら運動能力の向上を図れるよう工夫していきたい。

7 学校関係者評価

- ・自己評価の結果は、各項目において概ね学校としての目標値を上回っており、上戸祭小学校の先生方の取組の成果が表れていると感じる。
- ・次年度の方針についても、項目ごとに先生方で話し合い、学校評価書に記載している通りに進めていくことでより良い成果が期待できると考える。
- ・児童の肯定的回答が教職員のものを上回っているのは1項目だけ、保護者についてはすべてが教職員より下回っている点は昨年同様気になるところである。先生方が懸命に児童の指導に努力していることが、保護者には伝わらないということか。
- ・A7「児童は宇都宮の良さを知っている」の項目では、「宇都宮」以前に、まず自分たちが住んでいる地域をよく知り愛着を持ってもらう上で、町探検や校外学習等の機会があれば地域住民として協力していきたい。
- ・A12「不登校を生まない学級経営」の肯定的回答率が、教職員が100%に対し、児童は95.1%とやや低くなっているところが気になる。数値上、目標値には達しているが、残りの5パーセントの児童に目を向けることが必要である。
- ・児童の回答で一番数値が高いのが97.6%だが、2.4%の児童がN Oと答えている。なぜその児童たちは肯定的回答ができなかったのかを検証していただきたい。
- ・A17, 18, 19の項目の評価については、コロナ禍で学校と地域との連携の機会が減少したことや、学校内の活動の様子が伝わりにくくなっていることも一因ではないか。児童と保護者にとってかけがえのない6年間が有意義なものとなるよう、学校行事等の再開については引き続きPTAとの綿密な協議をお願いしたい。また、学校を身近に感じていただくためにも、現在毎日発信されているホームページ等により、学校の情報を発信すると同時に、各種行事への地域の方々の参加や、参加を促すお声掛けの仕方についても引き続き検討していただきたい。
- ・B1「あいさつ」の項目に関しては、大人でもあいさつを返せない人がいる中で、子どもたちの中にも「見ず知らずの大人にあいさつをすることが恥ずかしい」といった思いがあるのか、近隣の小学校でも地域住民の肯定的回答率は低い。「登校班長が自らあいさつをすれば、下学年もそれに倣ってできるようになるのでは。」との意見もあった。特に本校では前年度よりも数値が下がっているため、児童側から「地域住民」特に「見守りボランティア」の方々への積極的なあいさつができるよう推進するなど、意識を高める取組が望まれる。引き続きご指導をお願いしたい。ただ、犯罪が増えている現状を考慮すると、その具体的取組については「育成会」や「PTA」ともよく話し合うことが重要と思われる。
- ・保護者や地域住民が学校行事に参加する機会を徐々に増やしていくことが、地域の中の小学校としてよりよい形につながっていくのではないかと。地域協議会としても、コーディネーターやボランティア組織が学校からの要望に応え、あるいは学校に提案していくことなどを通じて、児童の健全な育成と地域の教育力のさらなる向上・活用への取組に協力していきたい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・学校での様々な取組や教育活動への理解が深まるよう、学校行事の精選、感染拡大防止対策との兼ね合いを考慮しつつ、保護者や地域住民が直接学校生活に関わる機会を増やしていけるよう努めていく。また学校だより、学年だよりへの写真掲載、誰もがみられるホームページの充実等による家庭や地域への積極的な情報発信をさらに心掛けていく。
- 未来を見つめ学び続ける児童の育成を目指し、「はっきり・じっくり・すっきり」を合言葉に、対話的・協働的な学習の充実を図る。また児童一人一人が主体的に学習に取り組み、学びを深められる授業を展開していけるよう、「職員全員の研究授業の実施」を中心とした職員研修の内容をさらに充実させていく。
- 引き続き児童の規範意識の向上に努める。特に学校・家庭・地域の連携、「校内あいさつ運動」のさらなる充実、「小中合同あいさつ運動」の効果的な活用等により高められた意識を、校内だけでなく校外でも生かしていけるよう働きかけ、対象を広げたあいさつの習慣化を図っていく。
- 年間6回の「学校生活アンケート」の実施、教育相談期間の設定、相談ポストの常時設置などにより、児童の悩みに対し早期発見・早期対応ができるよう取組を強化し、「いじめを許さない」「不登校を生まない」学校全体の雰囲気づくりに尽力していく。また、ICT機器の更なる活用と併せて、適切で責任ある行動をもって情報技術を利用できるよう、機会を捉えてデジタル・シティズンシップ教育に取り組んでいく。
- 児童のよさを認め、伸ばす積極的な児童指導を継続するとともに、一人一人が活躍できる場を意識して設定するなど、児童一人一人が「居がい感」を高め、さらに充実した学校生活を送ることができるよう、目を向けていく。
- 教職員の肯定的回答率と比較して児童の肯定的回答率が低くなっている項目については、さらに細かい分析・考察が必要である。「Q U」や「学校生活アンケート」の結果を活用し、より一層の児童理解に努めるとともに、児童の実態を基に、気になる児童個人に対する対応や取組が適切であったかを振り返ることで、より一人一人の児童に適した指導となるよう工夫していく。

